

49 明治12年7月22日 菊池長閑

第七号

祭文

維明治十二年六月一日朋友某々門人某々潔修齊明遥拜敬具清酌
庶差之奠祭於梧樓那珂先生之靈先生年甫十九負笈四方徧訪大家
碩儒零丁瓢若凡十有五年既歸為藩之教授先生学兼和漢講經說文
特詳文法於是藩之学風一振大革面目以文鳴者出鳥以詩歌鳴者出
鳥以經史鳴者出鳥可謂一時極旺盛矣其後無幾以輿羽紛紜之故先
生亦與鳥既而遇更始寬優之典奉備文部省于東京令茲邊病沒島享
年五十三顧先生多在他鄉朋友門人亦索居星散有留於鄉者有遊於
四方者以故朋友不得永接肱于同輿連壁門人不得久承教于函丈柩
衣然而一旦遇凶報不得尽座枕聽紼之誠又不得尽憑棺臨抃之哀嗟

々哀哉先生性嗜酒燕遊間且飲且談每日我文法多得之節齋森田翁
々得之山陽頼翁天若仮之年必將有発二翁之所未発以大明文法于
世矣嗟惜哉天奪之年此日以一周月忌日在鼎朋友門人相会於其香
花院大泉寺謹設招魂之式先生有靈尚翩然降彼蒼以享此奠灌以待
右太田代熊太郎作文松原富太郎読上る

祝詞

掛巻も太も忌々敷く言巻も綾に早俄無き那珂通高主の神霊か是
の斎場に令招座奉て齊主駒形神社官司二見清六謹て白さく汝命
い我食国の中津国の博士に座て和漢の学の道に勝れ詩に歌に文
書業に至るまで世に似無く物し玉ひし事は普世に知所なれば更
にも不申昔時此盛岡に学館か開設いたりし時も君在はこそ速け
く其事も成就たりしか当時頓て教授と為て古来未聞やりし和漢
一致と云ふ学風か起して道引れしかは許々良の人等大方従学た
りき然は有れと時移り世代る際には賢人も事に当る例無にしも
有ねは去し明治元年陸奥出羽の戦争畢りし頃旧福井の藩邸に一
年余り謹慎せられしか異敷事も無れは遂に許りて後文部省に仕
奉しめ何呉の事に付て古か稽へ今に改て巨多の成功か立玉ひ亦
著述されし文書共の世の助けと成れるか不少なも有計留故天下
の知識とは世人称申せし所也計里然か如何成於与都礼かも如何
成太波言かも過る一日の日に君は鳥が啼東の京に哀れ悲しきか
も白雲の立の迷ひに天翹り過去座ぬと告来しかは言む須倍為む
須倍不知に波良婆比母登乎里左麻与比亘武き事とは音か而已會
啼く去れと斯てしも可在に不在は早くも六月一日は死去座し

客月の其日に当る日なれば本日か生日足日と定て代々御祖の奥
墓所なる大泉寺の玉床に汝命の御形か令座奉りて陸魂合る友垣
教か受し人等諸々齊はり清はりて祭典仕奉るとして御前に奉る
礼代の物と敵手の山の五百枝賢木に木綿職垂て御酒は甕の上高
知り御饌は糯米か炊備て厨の原に生る物は甘菜辛菜北上川に住
物は鱸の広物鱸の狭物鱸峰の辺りに得たる毛の果物東の浜に遠
く求たる沖津藻辺津藻儲は菓子塩水に至るまで残事無く机代に
置足はして奉らくか足幣帛の豊幣帛と平けく安けく甘らに聞食
て自今以往も在世座しし時の如く天下青人草の忠義か以て皇が
朝廷に仕奉る須倍か始として万の学に怠事無く撓事無く花委桜
の芽出咲匂ふ花の盛の弥真盛に守幸へ玉ひ御墓所の青山の岡上
に水枝指木々の若葉の弥栄えに栄えしめ玉へと白す事の由か詳
らに聞食せと二見清六恐み恐みも白す

右二見自ら読上右両文漸写取候間爰ニ遣し候祝詞ハ政国ニ為

写候

小太郎事

通世家族千葉県へ引越ニ付波義通文ニ依頼之事ニ申来候通文住
居処麴町区永田町三十番地也当年も養蚕首尾能濟盛上右計程也
糸綿未た製上らされハ目形不分明なり余処振合なれハ一升ニ付
糸十二三匁以上也おゑきおよしニ二本松機械ヲ以糸取稽古為致
候姉ハ漸ニ一日老升自由ニ取上リしり未た其手際ニ不出当年生
糸之景氣格別也追而答可申入外別事なし乍序暑中見舞申遣候
此方并お波も無事也

七月廿二日

武夫殿

長閑

(封筒表)

「米国ホストン府

菊池 武夫 殿



(武夫注記1)

(消印3) (消印2)

(消印1) (消印4) (武夫注記2)

(封筒裏)

「日本岩手県陸中国盛岡外加賀野

八十六番

菊池 長 閑

(消印5) 無事

(消印5)

(武夫注記1)

「Mr. T. Kikuchi

c/o Gilbert Sturwood & Co.

14 Merchant Exchange

Boston, Mass. U. S. A. 」

(武夫注記2)

「妙哉」

(消印1)

「親中・親中・中・二三 謹記」

(消印2)

「TOKEI JAPAN. 29 JUL」

(消印3)

「YOKOHAMA AUG 13 1879」

(消印4)

「REC'D IN BOSTON MASS.」

(消印5)

「YOKOHAMA JUL 30 1879」

(消印6)
「SAN FRANCISCO PAID ALL AUG 27」